

新潟暮らしを比べてみよう!

買い物環境 (人口10万人当たり大型小売店舗数)

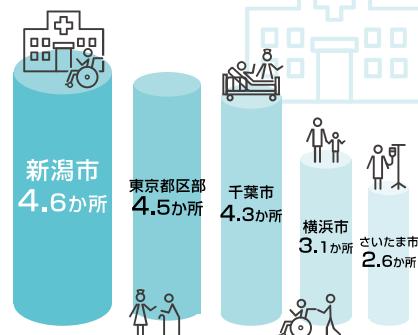
中心部には商業施設が集積し、郊外にはスーパーが点在しているためショッピングも快適です。



出典: 大都市統計協議会「大都市比較統計年表」(平成27年)

医療環境 (人口10万人当たり一般病院数)

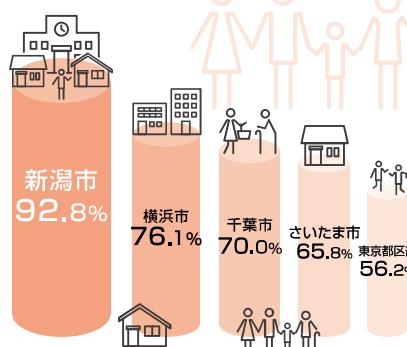
多くの病院があり、安心して受診できます。また、ドクターを配置するなど救急体制も整っています。



出典: 大都市統計協議会「大都市比較統計年表」(平成27年)

地域コミュニティ (自治会加入率)

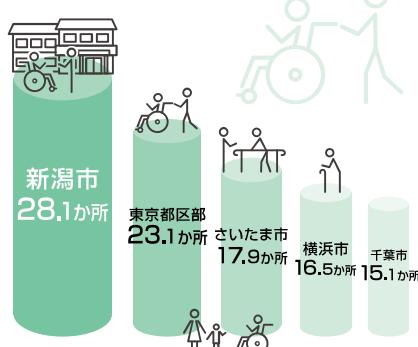
自治会加入率が高いので、しっかりした地域コミュニティがあります。



出典: 新潟市「指定都市地域振興主管者連絡会議配布資料」(平成27年)
世田谷区「世田谷区調べ」(平成25年)

介護環境 (高齢者人口10万人当たり介護老人福祉施設数)

いざという時の備えも万全。ご家族のみなさまからも安心していただけます。



出典: 大都市統計協議会「大都市比較統計年表」(平成27年)

新潟市 地域・魅力創造部 新潟暮らし奨励課
〒951-8550 新潟市中央区学校町通1-602-1
TEL 025-226-2149 E-mail kurashi@city.niigata.lg.jp

新潟市移住・定住情報サイト
[「HAPPYターン」はこちら](#)



ゆとりの中で、やりたいことができる。

新潟暮らし



新潟市

暮らしやすいまち 新潟市

80万市民が活躍する都市と
豊かな自然環境が共存するまち

新潟市は本州日本海側唯一の政令指定都市として、商業施設や高度医療施設、港湾・空港といった都市機能が集積しています。市街地を一步踏み出せば、潟、川、海などの多様な水辺空間や広大で美しい田園地帯が広がる、都市の利便性と豊かな自然環境を兼ね備えた都市です。

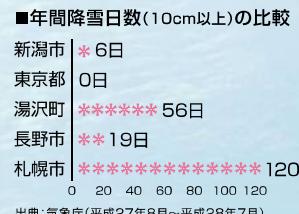
四季の移り変わりがはっきりしていて 過ごしやすいまち

「雪国」のイメージが強い新潟ですが、県内全域が豪雪地帯というわけではありません。山間部などでは3~4メートル積もることもありますが、日本海沿岸の平野部に広がる新潟市では、雪は降りますがあまり積もりません。また、4月から10月までの期間では、日照時間は東京を上回り快適に過ごせます。

湊町の歴史が培った文化が息づき

豊かな自然に育まれた多様な食材に恵まれたまち

近世から日本有数の湊町として発展し、おもてなしの精神と料亭料理、近郷の農家の郷土料理といった多様な食文化が根付いています。日本海の豊富な海産物や、信濃川、阿賀野川が生み出した肥沃な大地から採れる農産物など、質の高い多様な食材に恵まれていることも大きな魅力です。



コミュニティが支えた新潟移住

フリーランス IoT・組込機器開発コンサルティング、エンジニア
菊地 優基さん(55) 中央区在住

from 東京都江東区 2017年



~2016年 新潟に関心
東京生活への違和感と新潟移住
への想いが膨らむ。

2016年12月~ コミュニティに参加
新潟コミュニティに繋がりができた。

2017年 移住の準備
月1回程来県し、移住準備。コミュニティの人に支えられた。



2017年3月 新潟に移住!

コミュニティの中で暮らす

移住をする中でポイントになったのがコミュニティの存在です。私が移住できたのは「ミチルベ」(新潟市移住者応援有志の会)や「シーキングスペース」といった移住者や面白い人のコミュニティがあったから。交流会やイベントにも参加しながら、移住の準備を進めました。繋がりや拠り所は何をするにおいても大切なこと。その中で助け合えることができ、ビジネスも生まれています。

美しい自然を楽しめる幸せ

新潟の気候は夏は夏らしく、冬は冬らしい。季節ごとにはっきりと変化し「毎日が綺麗」と感じています。家の裏の海で釣った魚をご飯のおかずにしたり、海を見ながら仕事をしたり。美しい自然をのびのびと楽しめる暮らしに幸せを感じています。

子どもにのびのびとした暮らしを

東京ではマンションの高層階に暮らし、電車には時刻表を見なくても不自由なく乗ることができる生活。子ども達が草や虫に触れることもなく「私が家族と暮らしたい環境ではない」と思いました。自然にも触れて、のびのびと暮らせる場があることを知ってほしいと、新潟移住を決意しました。

やりたいことに 挑戦できる場が 新潟にあった

(株)歐州ぶどう栽培研究所
カーブドッヂワイナリー
柴本 博さん(64) 西区在住

from 神奈川県鎌倉市 2011年

2010年秋
カーブドッヂへの転職が決まる。

憧れの場が新潟にあった

新潟に来る前は鎌倉でワインショップを経営し、ワインや輸入雑貨の販売をしていました。ワイナリー立ち上げ時には携わっていたカーブドッヂは私の憧れでした。ぶどう畑、醸造、販売までワインに関わる全てがここにある。仕事、そしてワインに携わることを、ここでできればそれで満足。そんな気持ちで、カーブドッヂのある新潟に移住することを決意しました。



都会では味わえない喜びも

新潟は「土」に憧れを持つには良い環境だと思います。都会ではなかなか住めない庭付きの戸建ての家なので、野菜や花を育てるこどもに意欲が湧きますし、初めて収穫した野菜の味は本当に感動的でした。これからも、仕事や暮らしのスタンスを変えて、家族みんなが元気で過ごせればと思っています。

2010年秋~2011年1月
引越しの準備。

2011年1月 新潟に移住!

仕事と移住の関係

「良いところですよ」と語る鎌倉での暮らしを手放し新潟に移住した柴本さん。住む場所や肩書きではなく、「やりたい仕事」の存在が移住の決め手になりました。

